

| | |
|---------|--|
| 氏名(本籍) | 末廣 ^{すえひろ} 満彦 ^{みつひこ} (愛媛県) |
| 学位の種類 | 博士(医学) |
| 学位授与番号 | 乙 第 82 号 |
| 学位授与日付 | 令和2年3月12日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第2項該当 |
| 学位論文題目 | The role of Kyoto classification in the diagnosis of <i>Helicobacter pylori</i> infection and histologic gastritis among young subjects in Japan |
| 審査委員 | 教授 山辻 知樹 教授 友田 恒一 教授 石原 武士 |

論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

本論文は、我が国における胃癌の発症原因とされる *Helicobacter pylori* (*H.pylori*) 感染を内視鏡的に診断することを目的として作成された胃炎の京都分類が若年者にも適応できるか後方視的に検討したものである。2010年から2017年にかけて川崎医科大学附属病院および川崎医科大学総合医療センターで内視鏡検査を受けた29歳未満の患者1031人の中で、胃全体が観察され、胃前庭部と胃体部の2か所以上から生検が行われ、組織学的に *H.pylori* 感染と胃炎の診断がなされ、NSAIDs や PPI 等の薬物歴、*H.pylori* 除菌歴等を除外した220例を対象として解析された。

京都分類に従い内視鏡専門医が *H.pylori* 感染の内視鏡的診断を行った。*H.pylori* 感染の組織学的診断は、Updated Sydney System に基づく組織学的胃炎の存在とギムザ染色/ヒメネス染色によって行われた。京都分類による内視鏡所見では、220例中67例が内視鏡的に *H.pylori* 陽性と診断されたが、その全例において、組織学的にも胃前庭部と体部に胃炎を認め、*H.pylori* 陽性と診断された。内視鏡所見で *H.pylori* 陰性と診断された153例は組織学的に1例のみ *H.pylori* 陽性と診断された他は陰性であった。以上より京都分類を用いた *H.pylori* 感染の内視鏡診断は、感度98.5%、特異度100%であった。京都分類による内視鏡所見で若年者の *H.pylori* 感染を診断することが可能であると結論づけた。

本研究は *H.pylori* 感染を内視鏡的に診断するために用いられる京都分類を若年者にも適応できるか検討した初めての報告であり、臨床的にきわめて意義深く、独創的であり、今後若年者の除菌療法をすすめるための根拠として引用される可能性が高い。学位論文に関する審査基準を満たし、十分な医学的価値があるものとして報告する。

学位審査会（最終試験）の結果の要旨

提出された学位論文について、その医学的背景、研究計画、結果の発表が行われ、引き続き審査委員による質疑応答を通じ、学識ならびに研究能力についての試験を行った。申請者は川崎医科大学総合医療センターにおいてこれまで多くの内視鏡検査および治療を行っており、豊富な臨床経験をもとに消化器内視鏡に関する研究報告を副論文として提出している。その中でも胃炎の京都分類に基づく *H.pylori* 診断は、我が国において広く行われてきた除菌治療と胃癌発症予防という観点から臨床的に極めて重要である。本研究の主題である若年者に対する内視鏡的 *H.pylori* 診断は、今後我が国における胃癌発症と予防を含めた疫学的にも重要な課題であるが、これまで十分な検討が行われてこなかった。申請者は消化器内視鏡専門医として、この臨床的課題を解決するために、川崎医科大学倫理委員会承認の下、内視鏡所見による組織学的胃炎の診断能に関する観察研究として、本研究課題を立案・計画し、データ集積および解析を行い、その結果について論理的に考察し、発表を行った。

研究結果とその解釈について審査委員より質問を受けた。本報告における若年者 *H.pylori* 陽性率が約 30% と高い理由は、有症状症例の割合が高いためであると解釈した。本研究における若年者 *H.pylori* 陽性者に対する除菌療法について、その具体的な状況と結果についても説明がなされた。さらに京都分類の若年者に対する臨床的意義について、感染経路の違いや除菌療法を導入した場合の胃癌発症予防についても言及した。論文は後ろ向き研究であるが、若年者における *H.pylori* 感染診断の意義から将来的展望についても幅広く考察されており、当該研究における申請者自身の高度な専門性と深い学識に裏付けられた発表であった。